

温故知新

静岡県立中央図書館所蔵の貴重書紹介(45) 平成14年4月15日

明治初期の教科書(その5)

文部省編集・刊行『史畧』(K083/97)

歴史の教科書は地理に比べその数は少ないが、これは歴史書がもともと武家子弟の指導者としての識見を養うための教材であり、一般庶民にとっては必要の無いものと考えられていたからです。また歴史は高度な意識と理解を必要とするため、明治5年の学制にも下等小学の科目として掲げられていませんでした。国民教育の立場から歴史教科書が編纂されるのは学制以降のことになります。

文部省が初めて編集・刊行した小学校歴史教科書が、『史畧』(K083/97)でした。文部省はこれに引き続いて詳細な歴史教科書『萬國史略』(211/35)、『日本畧史』(209/156)を出版しており、『史畧』はそれらを使用する前に歴史の初歩を学ぶ入門教科書として編集されたものでした。

『史畧』(4巻 明治5年刊)は、巻一が皇国、巻二が支那、巻三・四が西洋上及び下となっており、日本と支那(中国)の歴史を木村正辭が、西洋の歴史を内田正雄が編集しています。その例言に「此書幼童をして暗誦せしめむことを要す 故に簡易を旨としすべて省略に従ふ」とあるように生徒が暗誦することを前提に、簡略で易しい文章を用いています。

巻一皇国編の内容は神代と人皇(神武天皇以降の天皇)に分かれており、天御中主神で始まる神代は僅か2頁で、人皇が主であり、歴代天皇名を列記し編集した天皇歴代記と言えます。第1代神武天皇から122代明治天皇まで全ての天皇について記述されています。巻二支那も太古・三皇帝五帝より清朝の今帝までを各王朝により区分し、それぞれの皇帝名を掲げた皇帝歴代史と言えます。これは編者が日本と支那を天皇、皇帝の歴史によりまとめようとした意図が見られます。

編者木村正辭(文政10(1827)年~大正2(1917))は下総国成田町(千葉県成田市)に生まれ、16歳で京都妙法院宮の家臣木村氏を継ぎます。明治2年大学大助教に任ぜられ、以後神祇官・太政官・文部省などの諸官を経て、文科大学教授・高等師範学校教授を歴任し、明治35(1902)年には文部省国語調査委員会委員となります。晩年は『万葉集』の研究に没頭しその著書も多く、また蔵書数万巻に及び、明治天皇に珍本数種を献じたこともあります。

巻三・四西洋編は『輿地誌略』の著者内田正雄(1839~1876)が編集しており、本書は時期的に見て『輿地誌略』と並行して書かれたものと考えられます。(『輿地誌略』については、「温故知新」明治初期の啓蒙書(4)を参照)翻訳原本については不明ですが、グートリッジの歴史書の翻訳書『パーレー萬國史』や『五州記事』等と同じ系統の原本を基にして編集されたと思われる。

上古の歴史と中古以下各国の国別歴史に大別されており、各国史について記述する際も各国王・皇帝などの事績として歴史を述べている点など巻一皇国・二支那と共通した歴史教材観を有しています。各巻とも挿絵がいくつか入っていますが、これも簡略な表現と同様小学校の歴史教科書にとって理解を助けるために、挿絵を加える必要があるという方針によったものです。明治10年頃まで文部省で刊行された『史畧』は10万部を超え、また各県でも多数翻刻・使用され、近代小学校歴史教科書の先駆的存在でした。

『日本畧史』(2巻 師範学校編 明治8年刊)は『史畧』巻一の木村正辭が編集し、『小学読本』の那珂通高が校訂しており、『史畧』巻一を書き改め内容を充実した、独立した歴史教科書です。編集方針は基本的には同じ天皇歴代史のスタイルをとっていますが、『史畧』巻一が僅か19枚に対して、上下2巻90枚に亘り、充実・整理された内容となっています。

『萬國史略』(2巻 師範学校編 明治7年刊)は『史畧』の西洋編を編集した内田正雄に代わり、大槻文彦(1847~1928)が編集しています。しかし内容については例言にあるように、『史畧』等の教科書を加筆修正し編集しており、基本的な性格は『史畧』の方針を受け継いだものです。日本を除くアジア・ヨーロッパ・アメリカの3洲21ヶ国の国別歴史の概略を述べており、日本と関係の深い中国については特に詳述しています。

【参考文献】

『日本教科書大系 近代編』(375.9/118)

『近代日本教科書総説』(375.9/114)